

事務事業名	7269 アーカイブズセンター運営費													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当		郷土博物館担当			
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	02	01	03	01	01	記入日	平成30年06月09日
	H29	62	12	00		H29	01	02	01	03	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ		実施計画候補
基本目標	01 子どもの成長と生涯にわたる学びのまち	○ 対象 ● 対象外
分野	04 生涯学習	
施策	12 図書館・郷土博物館サービスの充実	
事業期間	平成13年度～平成32年度	
根拠法令 通達等	公文書館法 文化財保護法 公文書等の管理に関する法律 戸田市アーカイブズ・センター規程	関連計画 施政方針
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの	
対象	市民、研究者及び行政職員等の利用者	
事業目的	設備改修工事期間、古文書をはじめとする歴史的公文書（行政文書）を安全に保管する。	
事業内容	設備改修工事期間に館内留置史料は、汚損されないよう養生を行い、古文書等の一部史料は最適環境状態が保たれる外部保存に出す。	
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()	

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		3,436	5,025	4,210	5,531	5,531	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	55	44	36	36	36	
	一般財源		3,381	4,981	4,174	5,495	5,495	
	人件費		4,689.96	1,034.55	1,034.55	4,689.96	4,689.96	
	投入 人員	常勤職員	0.68人	0.15人	0.15人	0.68人	0.68人	
		非常勤職員	1.19人	0.31人	0.31人	1.7人	1.7人	
事業費+人件費		8,126	6,060	5,245	10,221	10,221		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動 ①	整理した史料の数	点	整理した史料の点数		12,000	12,000	6,000
		アーカイブズ・センター利用登録者数	人	センター利用登録を申請した累積の人数		44,387	52,149	—
	成果 ①	史料の貸出・利用数	点	館外貸出又は館内利用した史料の点数		30	5	0
		アーカイブズ・センター利用者数	人	センターを利用した1年間の延べ人数		4	15	—
	成果 ②	アーカイブズ・センター利用者数	人	センターを利用した1年間の延べ人数		100	100	0
目標達成状況の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> アーカイブズ・センターの利用は、江戸時代などの古文書の研究者となり、利用登録者数は少ないが、近年の実績に合わせて29年度は目標人数を設定したため、全てにおいて達成できた。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 戸田市の歴史を紡ぐ史料整理は、郷土戸田を知るための重要な史料となるため適正である。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 史料整理は、人手によるものでなければならず、現状のパート雇用に要する経費は適正である。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	C	B	<判断理由> 史料の中には、個人情報が含まれているものも多く、業務委託等は馴染まない。公文書管理の適正な保存・継承において将来的には、指導的専門職員が必要であるが、現状では、専門家の指導の下に史料整理は適正な手法で行われている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 利用者への貸出しは、一律無償としている。なお、史料整理をし、適正な方法での保存は、将来にわたり行政体の責任においてなされるものであり、説明責任の根拠となるものである。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	専門家の指導の下に、3人のパートタイマーの特性をいかしながら、史料の整理に当たらせるようにした。また、手間を数量として見える化することで、整理の効率的な方法を積極的に取り入れるようにした。
見直しの効果	作業目的が明確になり、整理の質、量の向上が見られた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 保存年限の満了した廃棄公文書を文書保存箱単位で毎年度収集している。毎年廃棄される予定の公文書の拾い上げをすることで、行政組織としての動きを確実に残すよう努めている。収集史料は膨大な量であるが、長期保存の可能な形態を整備し、良好な状態で保存していく。今後も現状の予算・人員規模で着実に史料保存とこれまで収集した古文書史料や地図資料などを閲覧に供する事業を継続する。 ただし、今年度からの設備改修工事期間については、前半期は史料の移動のための整理、後半期は仮事務所での作業となるため、人員に合わせた史料整理となる。
今後の取組方針	今後も地道に整理・保存を継続していくことが、「戸田市」の歴史を跡付けることとなり、それが行政の責務である。よって、戸田市の歴史を確実に跡付けられる史料収集・保存の知識のある「アーキビスト」の働きができる職員を育成する。 設備改修工事期間終了後に向けて、既に満杯状態の史料を保存する適正な収蔵庫の建設を考えていく。

事務事業名	21272 図書館管理運営費													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	図書館担当				
組織コード	H30 H29	62 62	10 12	00 00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30 H29	01 01	10 10	04 04	06 06	02 02	01 01	記入日	平成30年06月08日

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補	
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										● 対象 ○ 対象外	
分野	04	生涯学習											
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和58年度～平成32年度												
根拠法令 通達等	図書館法 戸田市図書館条例及び同条例施行規則				関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画							
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	図書館利用者												
事業目的	利用者の利便性向上と安全に資するため、適切な施設の維持管理を行うとともに、各種行事や講座の実施等総合的な図書館運営を行う。												
事業内容	図書館施設の維持管理及び図書館運営に係る各種業務												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	図書館管理運営費(設計費増)	図書館管理運営費(設備改修工事費増)	図書館管理運営費(設備改修工事費増)	図書館管理運営費(指定管理料増)	図書館管理運営費(指定管理料増)	
	事業費	260,772	317,833	649,283	250,000	250,000	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	87,900	0	0	0
		その他	271	91	74	74	74
		一般財源	260,501	229,842	649,209	249,926	249,926
		人件費	35,864.4	18,621.9	13,794	13,794	13,794
	投入 人員	常勤職員	5.2人	2.7人	2人	2人	2人
		非常勤職員	6.85人	2.19人	2.14人	2.14人	2.14人
	事業費+人件費	296,636	336,455	663,077	263,794	263,794	

目標達成状況	指標名		単位	説明・算定式	H28目標	H29目標	H30目標
					H28実績	H29実績	H30実績
活動①	自動貸出機設置件数		台	自動貸出機を設置した件数	5	5	5
活動②	図書電算システム委託契約件数		件	図書電算システムを委託契約した件数	1	1	1
成果①	自動貸出機利用率		%	自動貸出機の利用率	45	45	45
成果②	図書電算システムにおける障害発生件数		件	貸出業務の停止を伴う程度の障害	41.7	34.8	—
					0	0	0
					0	0	—

目標達成状況の分析	<p>B：活動・成果のいずれかを達成した。</p> <p><判断理由> 図書館システムのマニュアルを職員及び委託会社に徹底することにより、貸出業務の停止を伴う程度の障害の発生を防ぐことができた。 自動貸出機は、本館3台、上戸田分館2台、合計5台ある。平成28年度と比べ、2館それぞれの利用率は上げることができたが、全体では下がり、成果目標は達成できなかった。今後も貸出機利用のPRに努めたい。</p>						
-----------	--	--	--	--	--	--	--

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 図書館運営の根幹事業であり、当事業によって市民が必要な資料や情報を入手し、自らの暮らしや仕事に役立てることができている。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> カウンター事業の一部を委託することで、人件費等を最低限に抑え、適正化を図っている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 図書館の建物管理等は業務委託を実施し、最低限のコストで適切な管理が行えるようにしている。また、本館の一部カウンター業務についても、業務委託を実施している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本事業は、一部の市民のみだけでなく全ての市民に係る内容であるので、事業の効果は広く市民に還元されるものである。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	家庭、地域、学校等の市全体で子供の読書活動を推進するため、平成28年度4月から戸田市立図書館各館カウンターで「戸田市子供読書手帳」を配布している。平成29年度4月より新小学1年生全員への配布も始めた。
見直しの効果	図書館全館カウンターの配布部数が2,700部を超え、好評である。平成29年度に50冊読了し、手帳に達成証スタンプ押印を受けた人数は50名だった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 市民の利用頻度の高い公共施設であることから、施設の老朽化に対し計画的な修繕を進めて行くとともに、開館時間の延長をした現状を維持し、市民の利便性向上に努めていく。 また、市民サービスの向上に資するよう、図書館窓口等業務の更なるマニュアル化を進め、効率的で利便性の高い図書館運営を目指していく。
今後の取組方針	平成30年度は、10月より設備改修工事が始まるため、7月から休館となるので、その対応を進める。また、指定管理者制度についても平成32年度導入に向けて準備を進める。

事務事業名	7575 資料管理事業													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	図書館担当				
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	06	02	02	記入日	平成30年06月08日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	06	02	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補	
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象	
分野	04	生涯学習									● 対象外	
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実										
事業期間	昭和58年度～平成32年度											
根拠法令 通達等	図書館法 戸田市立図書館条例及び同条例施行規則				関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの											
対象	図書館利用者											
事業目的	図書館は、多くの書籍等の資料の中から価値があり有益だと思われるものを選択・収集し、提供する。また、それを良好に管理し、市民の読書活動に資することを目的とする。											
事業内容	各種資料を選定し、購入し（発注、受入れ）、書架に配置する。利用しやすいよう分類に従い整理整頓する。最新情報を提供する必要がある場合には、当該資料の新陳代謝を図る。											
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()											

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		26,310	19,615	26,500	27,000	27,000	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	24	24	24	24	24	
	一般財源		26,286	19,591	26,476	26,976	26,976	
	人件費		8,966.1	7,862.58	5,517.6	5,517.6	5,517.6	
	投入 人員	常勤職員	1.3人	1.14人	0.8人	0.8人	0.8人	
		非常勤職員	2.6人	1.33人	1人	1人	1人	
事業費+人件費		35,276	27,478	32,018	32,518	32,518		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①	購入図書の冊数	冊	購入図書の冊数		9,500	9,500	7,000
		除籍図書の冊数	冊	除籍図書の冊数		10,051	10,382	—
	成果①	市民1人当たり貸出冊数	冊	全貸出冊数÷人口		10,000	10,000	25,000
						7,474	24,731	—
	成果②					5.5	5.5	4.5
					5.5	5	—	
目標達成 状況 の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 市民1人当たり貸出冊数は、目標を下回った。除籍図書の冊数については、平成27年度に書庫資料の一部にカビの発生が確認され、やむなく除籍となった資料が多くなり、平成28年度は除籍を控えたが、平成29年度は平成30年7月からの休館にそなえ、多く除籍したため、目標を達成した。							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 市民ニーズを勘案しつつも、様々な分野の学問・研究に役立つ良書を選定し、市民が心豊かな読書生活を送ることに貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：経費の精査が十分になされている。
	A	A	A	<判断理由> 資料の購入については、全館の蔵書校正も配慮し、幅広い著作物から厳選して購入している。また、市民一人当たり貸出冊数の推移を見ながら購入費用を決めており、経費の精査は十分になされている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 図書購入から除籍まで（選書→受入→配架→整頓→書庫入れ→除籍）の手法が確立されており、配架から書庫入れまでの手間の掛かる作業は、職員ではなく業務委託して実施している。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本事業は、一部の市民のみだけでなくすべての市民に係る内容であるので、事業の効果は広く市民に還元されるものである。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	購入図書の選定については毎週1回行っているが、平成27年9月より指定管理者による運営となった上戸田分館については、指定管理者が1次選書し、本館職員が2次選書する形となっている。平成30年7月からの本館休館を考慮し、分館・分室については新刊書の選定に加え、傷んだ基本図書の買替え、蔵書が少ない分野についての補充等を行なった。
見直しの効果	戸田市全体での蔵書構成の調整を図り、様々な分野の図書を備える図書館に近づいてきた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1現状で継続 <input type="radio"/> 2拡大して継続 <input type="radio"/> 3縮小して継続 <input type="radio"/> 4他事業と統合 <input type="radio"/> 5休止 <input type="radio"/> 6その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 業務委託している部分を含め図書購入から除籍までの業務は、円滑に行われている。また、文教建設常任委員会から、市の人口規模からすると本市の図書購入費予算は足りない状況にあるため、予算の増額要望（平成26年3月）があったことから平成27年度から平成29年度は増額分があったが、今年度は本館休館に伴い、減額された。本館が再開する平成32年度は再び増額させたい。
今後の取組方針	平成30年7月より本館は休館となるが、限られた図書購入費をやりくりしながら選書し、市全体のリクエスト等にも応えていく。ホームページ等で利用者が資料を探す（選ぶ）際に役立つ情報発信に努める。

事務事業名	32484 図書館・郷土博物館協議会費													
担当組織	教育委員会事務局				生涯学習課				担当	図書館担当				
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	06	03	01	記入日	平成30年06月08日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	06	03	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ										実施計画候補			
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち								○ 対象			
分野	04	生涯学習								● 対象外			
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	平成21年度～平成32年度												
根拠法令 通達等	図書館法・戸田市立図書館条例 博物館法・戸田市立郷土博物館条例				関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画							
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	図書館・郷土博物館協議会委員												
事業目的	条例により設置し、図書館・郷土博物館の運営に関し外部の視点を盛り込むことを目的とする。												
事業内容	図書館・郷土博物館の運営に関し、館長の諮問に必ずるとともに、図書館・郷土博物館の行う事業について、館長に対して意見を述べる。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
事業の 予算・実績	事業内容	図書館・郷土博物館協議会 運営費	図書館・郷土博物館協議会 運営費	図書館・郷土博物館協議会 運営費	図書館・郷土博物館協議会 運営費	図書館・郷土博物館協議会 運営費	
	事業費	137	216	216	216	216	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	137	216	216	216	216
	人件費	2,344.98	1,379.4	1,379.4	1,379.4	1,379.4	
	投入 人員	常勤職員	0.34人	0.2人	0.2人	0.2人	0.2人
		非常勤職員	0.06人	0.06人	0.06人	0.06人	0.06人
事業費+人件費		2,482	1,595	1,595	1,595	1,595	

	指標名	単位	説明・算定式	H28目標	H29目標	H30目標
				H28実績	H29実績	H30実績
目標達成 状況	活動①	回	図書館・郷土博物館協議会を開催した回数	2	2	1
	2			2	-	
	活動②				-	
	成果①	人	協議会の出席委員延べ人数	20	20	8
15	14			-		
成果②	件	委員から出された意見数	10	10	5	
22			22	-		

目標達成状況の分析	B：活動・成果のいずれかを達成した。 <判断理由> 協議会の開催回数については、目標を達成している。会議では従来、上半期と下半期の状況をそれぞれ報告するものであったが、平成26年度から運営に関する意見を聴くようにしたので、意見数が大きく増えた。しかし、出席委員数については、目標に掲げた100%を達成することができなかった。
-----------	--

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 協議会での委員からの意見を基に、図書館サービスの改善を図ることができるため、図書館サービスの充実に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 委員報酬については、条例で定められた附属機関委員の額とし、開催回数も必要最低限で実施している。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 事業実績報告と今後の事業予定の事務局発表とともに、図書館運営に関する意見聴取や意見交換を行うことで本来の附属機関としての活用を図っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本事業は、一部の市民のみだけでなく全ての市民に係る内容であるので、事業の効果は広く市民に還元されるものである。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	図書館運営に関する意見を積極的に聴き出すようにし、図書館の将来像を考えるような会議内容にした。
見直しの効果	現状の課題の解決策や将来の展望についての意見や指定管理者制度についての意見を聴くことができ、図書館の将来像を考える上で、参考とすることができた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 条例で定められた諮問機関であり、本来の役割を踏まえ現状のまま継続して運営していく。
今後の取組方針	図書館・郷土博物館協議会に現状の課題の解決策や将来の展望について意見を聴くという本来の附属機関の在り方を維持していく。平成32年4月からの指定管理者制度導入に伴い、図書館と郷土博物館を別々の協議会とすることを検討する。

事務事業名	21269 郷土博物館運営費													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	郷土博物館担当				
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	07	02	01	記入日	平成30年06月09日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	07	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補	
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										○ 対象 ● 対象外	
分野	04	生涯学習											
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和59年度～平成32年度												
根拠法令 通達等	博物館法及び博物館法施行規則 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 文化財保護法 戸田市立郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	博物館利用者												
事業目的	施設改修工事中、博物館の収蔵品の保管機能の一部を一時的に仮設収蔵庫等の館外で安全に行う。												
事業内容	設備改修工事中、館内に留置する資料の汚損から守るための養生と工事に支障をきたす収蔵品は、外部の収蔵施設での安全な保管を行う。												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
		郷土博物館の 管理運営にか かる経費						
事業費			14,128	19,780	24,929	17,360	17,360	
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	県支出金		0	0	0	0	0	
	起債		0	0	0	0	0	
	その他		78	43	60	60	60	
	一般財源		14,050	19,737	24,869	17,300	17,300	
人件費			5,241.72	3,172.62	3,172.62	5,241.72	5,241.72	
投入 人員	常勤職員		0.76人	0.46人	0.46人	0.76人	0.76人	
	非常勤職員		0.5人	0.09人	0.09人	0.66人	0.66人	
事業費+人件費			19,370	22,953	28,102	22,602	22,602	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①							-
	活動②							-
	成果①							-
	成果②							-
目標達成 状況 の分析	- : 未設定 <判断理由> (※ 予算管理シート)							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	－：未設定
	－	－	－	<判断理由>

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	(※ 予算管理シート)
見直しの効果	(※ 予算管理シート)

5. 今後の方針

事業の方向性	<input type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> (※ 予算管理シート)
今後の取組方針	(※ 予算管理シート)

事務事業名	7578 郷土博物館資料収集・保存利用事業													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	郷土博物館担当				
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	07	02	02	記入日	平成30年06月09日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	07	02	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ											実施計画候補	
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち									○ 対象	
分野	04	生涯学習									● 対象外	
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実										
事業期間	昭和59年度～平成32年度											
根拠法令 通達等	博物館法及び博物館法施行規則 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 文化財保護法 戸田市立郷土博物館条例及び同条例施行規則				関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの											
対象	博物館利用者											
事業目的	博物館の基礎となる郷土資料を収集・保存し、市民生活の足跡を市民の共通の遺産として伝え残す。市民や学校、研究者等の求めに応じて閲覧、利用できるようにする。											
事業内容	戸田市に関わる自然・歴史・民俗・考古資料等を収集、整理、保存及び整備し、展示資料として公開、活用できるよう収集に努める。											
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()											

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業内容		資料の収集、 整理、保存及 び活用		資料の収集、 整理、保存及 び活用	資料の収集、 整理、保存及 び活用	資料の収集、 整理、保存及 び活用	資料の収集、 整理、保存及 び活用
事業費			2,224	1,661	2,465	2,465	2,465	
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0	
	県支出金		0	0	0	0	0	
	起債		0	0	0	0	0	
	その他		0	0	0	0	0	
	一般財源		2,224	1,661	2,465	2,465	2,465	
人件費			3,724.38	4,965.84	4,552.02	4,552.02	4,552.02	
投入 人員	常勤職員		0.54人	0.72人	0.66人	0.66人	0.66人	
	非常勤職員		0.94人	2.3人	1.08人	1.08人	1.08人	
事業費+人件費			5,948	6,627	7,017	7,017	7,017	
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①	整理した資料の数	点	整理した資料の点数	1,000	1,000	1,000	
					5,320	12,490	—	
	活動②							—
								—
	成果①	資料の館内利用数	件	館内で資料を利用した件数	10	10	0	
2					14	—		
成果②	資料の館外貸出数	件	館外へ資料を貸し出した件数	10	10	5		
				30	27	—		
目標達成状況の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 資料収集については、そのほとんどが寄贈によるものであり、収蔵庫のスペースの関係から、既に収蔵されている資料については、寄贈を断る場合もある。しかし、資料整理については、寄贈資料とはイコールではない。館外貸出資料点数・館内利用には、博物館同士の資料貸出のほか、小学校などの授業で実物資料を子供たちに見せるといった利用があり、活動・成果ともに目標を達成した。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 資料を収集・保存していくことは、過去から現在に至る人間の営みを未来に伝えていくことである。市民や研究者の学習活動にも貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 資料にとって大敵となる虫・カビの害から守るため、新規の寄贈資料は燻蒸処理をしたうえで収蔵している。日常的には良好な保存状態を保つための防虫対策に掛かる費用を最低限にとどめ、経費は適正といえる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 業務委託を効果的に行っている。具体的には、短時間でできる二酸化炭素による小規模燻蒸は当館職員が、殺卵を目的とした木製民具類等の燻蒸は業務委託している。委託料も当館職員が燻蒸場所に搬入・搬出し、経費節減を図っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本事業は、現在の市民のみならず、未来の戸田市民の財産として継承していくための事業であり、効果は広く還元されるものである。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	寄贈された資料は、洗浄後、年に1回燻蒸業者への持込燻蒸を実施し、収蔵庫への配架している。収蔵庫も満杯状態となってきている。特に近年の発掘成果による生涯学習課からの考古資料の移換により、埋蔵文化財の収蔵庫の有効活用が必要となった。古い図面や土器の破片を今日的な整理方法を導入することにより、コンパクト化した。また、展示できるものは、常設展示室に展示した。
見直しの効果	昨年度の移換分は、埋蔵文化財の収蔵庫に無事に納まった。また、新規の収蔵資料は、常設展示室へ展示することとしたので、市民へ新しい情報を提供することもできた。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 良好な保存状態を保つため、学芸員による作業のほか業者による燻蒸も継続していく必要がある。
今後の取組方針	収蔵庫の清掃や資料を定期的に目視することにより、良好な状態で資料保存に努めていく。また、防虫剤などの定期的な入れ替えを計画的に行っていく。満杯状態の収蔵庫、前室的な部屋については、物理的な問題であるため、今後も引き続き検討課題とする。 今年度からの設備改修工事のための収蔵資料の一時的に避難する収蔵先への移動準備と移動作業を計画的に実施していく。

事務事業名	7669 展示及び教育普及事業													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	郷土博物館担当				
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	07	02	03	記入日	平成30年06月09日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	07	02	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補	
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										● 対象 ○ 対象外	
分野	04	生涯学習											
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	昭和59年度～平成32年度												
根拠法令 通達等	博物館法 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 文化財保護法 戸田市立郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針	戸田市教育振興計画 戸田市生涯学習推進計画						
事業区分	○ 法定受託事務 ○ 自治事務のうち義務的なもの ● 自治事務のうち任意のもの												
対象	博物館利用者												
事業目的	展示事業は、資料収集機能、資料整理保管機能及び調査研究機能の成果を活用又は公開することで、市民の文化的関心と教養を高めることを目的とする。また、教育普及機能の一環として、博学連携事業を促進するとともに、文化的な郷土の醸成を目指す。												
事業内容	展示事業については、年間3回の展覧会を企画し、郷土戸田を様々な角度から紹介する。展覧会に関連した催し物を企画し、展覧会の理解を深める。 教育普及事業については、子供、親子又は市民を対象とした講座を年間を通して企画する。学校教育との連携を図り、郷土を愛する心を育てる。												
実施主体	■ 市による単独直営 □ 委託 (□ 3セク・財団 □ 企業 □ 市民・NPO) □ 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業内容	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	
	執行額(千円)	予算額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	計画額(千円)	
特別展示・企画展示戸教育普及活動、博学連携事業実						
事業費	10,516	590	28,311	12,541	12,541	
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	10,516	590	28,311	12,541	12,541
人件費	4,689.96	827.64	827.64	4,689.96	4,689.96	
投入人員	常勤職員	0.68人	0.12人	0.12人	0.68人	0.68人
	非常勤職員	1.36人	0.15人	0.15人	1.58人	1.58人
事業費+人件費	15,206	1,418	29,139	17,231	17,231	

指標名	単位	説明・算定式	H28目標	H29目標	H30目標
			H28実績	H29実績	H30実績
活動① 特別展示及び企画展示等の開催回数	回	特別展、企画展、ピエー及びピエー展示の開催回数	10	6	0
活動② 教育普及事業の開催回数	回	特別展等の関連講座も含めた講座等実施回数	19	19	—
成果① 特別展示及び企画展示の入場者数	人	特別展示室への延べ入場者数	20	10	0
成果② 教育普及事業への参加者数	人	特別展示室への延べ入場者数	31	34	—
			11,000	10,000	0
			11,021	8,639	—
			500	300	0
			709	231	—

目標達成状況の分析

B：活動・成果のいずれかを達成した。

<判断理由>
特別展示室への延べ入場者数については、テーマの取り上げ方や、展示資料の性質によって、左右されることがある。また、29年度は8月に停電となり夏休みに入場者数が増える時期に休館したため、目標が達成できなかった。子供、大人、親子を対象とした各種講座等の教育普及事業は、講座の性質によって定員が少ないものもあり、参加者数が伸びなかった。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>年3回の展示会は、戸田の歴史を紐解くテーマを選んでいる。市民の郷土への理解を深め、愛郷心を育む土壌を醸成した。特別展では近年の生活様式の変化とともに変わってきた人生儀礼を紹介し市民の知的好奇心に応えることができた。</p>
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	B	B	B	<p><判断理由></p> <p>展示会の委託業務は、入札検査課による入札で、しっかりした展示仕様書に基づき、質が高く経費も適正なものとなっている。</p>
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	A：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	A	A	A	<p><判断理由></p> <p>調査段階から恒久的な2次資料としての価値を委託事業での造作物（模型：ハレの日の御膳の食品サンプル）を再利用することにより、常設展示室の充実にも寄与できた。</p>
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<p><判断理由></p> <p>本事業は、一部の市民のみだけでなく全ての市民に係る内容であるので、事業の効果は広く市民に還元されるものである。郷土戸田への愛郷心が醸成される。</p>

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	大人の体験講座がなかったが、29年度は「御朱印帳を作ろう」といった、昨今のブームに乗った形で主催。しかし、道具などの準備、指導者の人数の関係で、少人数での募集とならざるを得なかった。
見直しの効果	大人を対象とした体験講座は、募集人員こそ少なかったが、応募者が多く反響があったことがわかる。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<p><判断理由></p> <p>平成30年度～31年度は、図書館・郷土博物館建物の設備改修工事が実施されるため、展示会の開催等は、活動場所がないため、休止となる。</p> <p>ただし、平成32年度以降のリニューアルオープンに向けた調査や展示計画が必要となる。また、休館中であっても、教育普及事業として、学校との連携は、できる限り対応していく。</p> <p>こうした活動は、博物館機能の中でも最も博物館らしい事業であるといえることから休館中の予算・人員は最低限維持していく。</p>
今後の取組方針	平成30年度は、前半期は設備改修工事に向けての収蔵資料の確認、移動作業がメインとなる。展示活動、体験講座を中心とした主催事業は休止となるが、博学連携事業は、当館の柱のを同事業には可能な限り実施し、一層の教育普及活動に努める。

事務事業名	7567 自然環境調査研究・講座開催事業													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	彩湖自然学習センター担当				
組織コード	H30 H29	62 62	10 12	00 00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30 H29	01 01	10 10	04 04	08 08	01 01	01 01	記入日	平成30年06月04日

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										○ 対象 ● 対象外
分野	04	生涯学習										
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実										
事業期間	平成9年度～平成32年度											
根拠法令 通達等	戸田市郷土博物館条例及び同条例施行規則				関連計画 施政方針	新行政改革大綱 行政改革推進計画						
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの											
対象	利用者											
事業目的	地域の動植物の分布や自然環境の様子を知ることによって、自然に対する興味を持つ人づくりを目的とする。											
事業内容	動植物調査及び自然環境の調査。調査資料や写真等に基づいて手引書、報告書、研究紀要等を作成する。地域の自然の様子を写真パネルなどで展示、各種講座の開催や生き物の配布を行う。											
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()											

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		415	509	500	500	500	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	40	40	40	40	
		一般財源	415	469	460	460	460	
	人件費		1,379.4	2,758.8	2,758.8	2,758.8	2,758.8	
	投入 人員	常勤職員	0.2人	0.4人	0.4人	0.4人	0.4人	
		非常勤職員	0.8人	0.8人	0.8人	0.8人	0.8人	
事業費+人件費		1,794	3,268	3,259	3,259	3,259		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動	① 自然観察会等講座の開催回数	回			31	30	30
		② 彩湖周辺の植物調査回数	回			31	30	-
	成果	① 自然観察会等講座の参加者数	人	延べ人数		50	50	50
		②				60	60	-
					900	800	800	
					857	836	-	
目標達成 状況 の分析		A：活動・成果ともに達成した。 <判断理由> 天候不順に伴う渇水により中止となった講座もあったが、開催回数及び参加者数ともに目標を達成することができた。						

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	B：施策の目標達成に貢献している。
	B	B	B	<判断理由> 参加者アンケートの集計結果では多くの方に満足してもらい、施策目標に貢献している。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	A	B	B	<判断理由> 担当職員削減分を非常勤職員で補いサービス提供の維持を確保したことで全体経費が削減されている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 正規職員1名であるが、専門に応じた非常勤職員を配置し、講座の充実に努めた。 また、外部講師に専門家を招いたことで受講者から高い評価を得ることができた。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 実費相当の参加費を徴収するとともに、傷害保険を本人負担で加入を行い負担の適正化に努めた。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	従来から人気のある講座の充実に努めるとともに、新規の講座を開催することで、新たな参加者確保に努めた。
見直しの効果	天候要因により、中止となった講座もあったが、各講座の参加者数は維持することができた。 また、講座参加者アンケートにおいても概ね好評であった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 一部講座で参加希望者が増え、キャンセル待ちや受付を断るケースが増加する傾向にある。市民からの需要の高い事業であることから、職員の稼働時間や講座の内容のや受付方法など改善を行い需要に応じていきたい。
今後の取組方針	講座についてアンケート調査による利用者の要望等を反映するとともに職員の資質の向上を図って、サービスを充実させる。

事務事業名	7542 施設運営・維持管理事業													
担当組織	教育委員会				生涯学習課				担当	彩湖自然学習センター担当				
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	08	01	02	記入日	平成30年06月04日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	08	01	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ												実施計画候補
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち										○ 対象 ● 対象外
分野	04	生涯学習										
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実										
事業期間	平成9年度～平成32年度											
根拠法令 通達等	戸田市郷土博物館条例及び同条例施行規則						関連計画 施政方針					
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの											
対象	利用者											
事業目的	安全で環境に配慮した施設運営を行い、安心して見学ができるようにする。また、展示室を改修することで館内展示を充実させ、入館者の増加を目指す。											
事業内容	施設・設備の修繕や警備、清掃等を行うことで、安全で快適なセンター運営を行う。ミニ彩湖等周囲の遊歩道等外回りの点検・整備も行う。											
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()											

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)		
	事業費		24,167	26,819	300,000	20,000	20,000		
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0		
		県支出金	0	0	0	0	0		
		起債	0	0	0	0	0		
		その他	55	70	70	70	70		
	一般財源		24,112	26,749	299,930	19,930	19,930		
	人件費		3,448.5	6,897	6,897	6,897	6,897		
	投入 人員	常勤職員	0.5人	1人	1人	1人	1人		
		非常勤職員	1.1人	1.1人	1.1人	1.1人	1.1人		
事業費+人件費		27,616	33,716	306,897	26,897	26,897			
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績	
	活動①	開館日数	日			328	228	330	
		設備修理件数	件			325	247	—	
	成果①	来館者数	人	延べ人数			5	8	8
							8	12	—
	成果②					21,000	15,000	21,000	
				22,288	17,811	—			
目標達成 状況 の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p><判断理由> 国との管理協定に基づく大規模改修のため3か月間休館したが、開館日数及び来館者数ともに目標を達成できた。 また、状況に応じ適切な設備の改善を行うことができた。</p>								

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 市民満足度の高い施設である。アンケートにおいても、施設管理について概ね好評を得ている。また、安全に配慮した改善を行ったことで市民サービスを向上させた。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	A	B	B	<判断理由> 展示を手作りしたり、市販品により職員が直接修理を行うことで費用の削減に努めた。また、空調機の入れ替えを実施し、エネルギー効率のよい機器を導入したことにより、今後費用の削減が見込まれる。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 市民満足度の高い施設であり、また、国の施設であることから市の直営とすることは妥当である。なお、施設の基幹部分の修繕については、適宜国と協議し、平成29年度に改修を行った。一方、施設展示は、20年を経過し老朽化・陳腐化が進んでおり、リニューアルを含め計画的な改変を行う必要がある。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 施設の性質上受益者負担は設けてないが、公益性の高いものなので適正である。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	国との管理協定に基づき施設老朽化に伴う修繕を実施した。
見直しの効果	昇降機、玄関スロープ、自動ドア等を更新するとともに、障害者用駐車場を新設し、より利用しやすい施設となった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 施設の老朽化が進んでいるため、計画的な改修を行う必要がある。 平成29年度に躯体を管理する国に大規模修繕が実施されたが、展示については、21年以前の内容であり陳腐化したものも多く、利用者アンケートでも改善を求める意見が多数ある。 既に有識者よりリニューアルについて提言をいただいていることから実現に向けた検討を行う必要がある。
今後の取組方針	展示物も多数が傷んでいることから、抜本的な対策を検討する必要がある。 市の責任となっている維持管理について、特に屋外観察施設については、利用者の安全確保のため改善をする必要がある。また、引き続き展示室の改修に係る予算要求を行っていく。

事務事業名	7619 彩湖自然学習センター博学連携事業													
担当組織	教育委員会					生涯学習課					担当	彩湖自然学習センター担当		
組織コード	H30	62	10	00	会計・款・項・目・大事業・中事業	H30	01	10	04	08	01	03	記入日	平成30年06月04日
	H29	62	12	00		H29	01	10	04	08	01	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ													実施計画候補
基本目標	01	子どもの成長と生涯にわたる学びのまち											○ 対象 ● 対象外
分野	04	生涯学習											
施策	12	図書館・郷土博物館サービスの充実											
事業期間	平成9年度～平成32年度												
根拠法令 通達等	戸田市郷土博物館条例及び同条例施行規則					関連計画 施政方針							
事業区分	<input type="radio"/> 法定受託事務 <input type="radio"/> 自治事務のうち義務的なもの <input checked="" type="radio"/> 自治事務のうち任意のもの												
対象	戸田市の小学校児童												
事業目的	学校側がセンターの資料や観察フィールドを活用と自然観察の知識を有する学芸員による解説を受けることで自然体験学習を有効に実施し、子供たちが地域の自然に触れ親しむ。												
事業内容	博学連携事業の推進のため彩湖自然学習センター活用検討委員会を開催する。サイエンスサポートプログラムによる出前授業や教材提供の実施												
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市による単独直営 <input type="checkbox"/> 委託 (<input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> 市民・NPO) <input type="checkbox"/> 協働・協力 ()												

2. 実施結果

事業の 予算・実績	事業内容		平成29年度 執行額(千円)	平成30年度 予算額(千円)	平成31年度 計画額(千円)	平成32年度 計画額(千円)	平成33年度 計画額(千円)	
	事業費		262	536	300	300	300	
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	
		県支出金	0	0	0	0	0	
		起債	0	0	0	0	0	
		その他	0	0	0	0	0	
	一般財源		262	536	300	300	300	
	人件費		2,069.1	4,138.2	4,138.2	4,138.2	4,138.2	
	投入 人員	常勤職員	0.3人	0.6人	0.6人	0.6人	0.6人	
		非常勤職員	1.1人	1.1人	1.1人	1.1人	1.1人	
事業費+人件費		2,331	4,674	4,438	4,438	4,438		
目標達成 状況	指標名		単位	説明・算定式		H28目標 H28実績	H29目標 H29実績	H30目標 H30実績
	活動①	自然体験学習実施学校数	校	延べ学校数		12	12	12
		出前授業実施学校数	校	延べ学校数		12	12	—
	活動②	自然体験学習参加者数	人	延べ人数		13	10	12
		出前授業参加者	人	延べ人数		18	17	—
	成果①	自然体験学習参加者数	人	延べ人数		1,200	1,300	1,300
出前授業参加者		人	延べ人数		1,339	1,308	—	
成果②	自然体験学習参加者	人	延べ人数		1,000	1,000	1,000	
	出前授業参加者	人	延べ人数		1,438	1,239	—	
目標達成 状況 の分析	<p>A：活動・成果ともに達成した。</p> <p><判断理由> 活動、成果共に目標を達成できた。サイエンスサポート及びセンター授業も年々定着してきており、参加した児童も日常において、自然体験に興味を持ち自主的に来館し勉強している。</p>							

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	27年度	28年度	29年度	A：施策の目標達成に大いに貢献している。
	A	A	A	<判断理由> 都市化の進展で自然環境が失われていくなか、センターでの自然観察体験を通じた自然と人との関わりの学習を専門職員と行うことは、子供の教育に資するものである。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：経費は適正な範囲である。
	A	A	B	<判断理由> 配置職員が減少したが、学校からの要請に対して職員（常勤・非常勤）の勤務を調整して全て実施した。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	27年度	28年度	29年度	B：事業手法は適正な内容である。
	B	B	B	<判断理由> 直営は妥当である。教員で構成する活用検討委員会において各学年からの要望を入れて連携事業全般の見直しに着手した。学校での出張授業、3年生センター授業を通じて教員との交流や意見交換を行うことで事業の改善を図っている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	27年度	28年度	29年度	B：受益・負担は適正な範囲である。
	B	B	B	<判断理由> 本事業は、貴重な自然体験や科学体験を児童の供することを目的としており、受益者負担はなじまない。

4. 平成29年度中に実施した見直し内容

見直し内容	指導主事の配置がなくなった分を非常勤職員の雇用で補った。既存の教育支援だけでなく、新たな分野や未着手の分野での教育支援のニーズや意見を踏まえて、今後の支援方法の検討を実施した。
見直しの効果	センターが提供するサイエンスサポート（出前授業や教材提供）や博学連携に対する理解が深まっており、出張授業支援や資料提供の要請がなされる機会も多くなった。

5. 今後の方針

事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> 1 現状で継続 <input type="radio"/> 2 拡大して継続 <input type="radio"/> 3 縮小して継続 <input type="radio"/> 4 他事業と統合 <input type="radio"/> 5 休止 <input type="radio"/> 6 その他見直し <input type="radio"/> 平成31年度で終了 <input type="radio"/> 平成30年度で終了 <input type="radio"/> 平成29年度で終了
	<判断理由> 軌道に乗った博学連携事業であるが、職員配置の変更を考慮して今後も継続実施する。
今後の取組方針	現場教員で構成する彩湖自然学習センター活用検討委員会で新たなセンター活用方法や教育支援を検討するとともに、センター授業等の説明会やホームページなど情報提供ツールの活用を通じて教員に対するセンターの学習利用への理解を求めていく。